

枠にとらわれない「まるごとケアの家」と半農半介護 10 年余の歩み

共生社会が言われる前から「まるごとケア」を実践する先人が岩手にいる。高橋和人氏は地元八幡平市にUターンし、特養の事務長として5年勤めたが、そこで当たり前に行われている大規模施設の集団管理型のケアには馴染めなかった。その頃、父・祖母に先立たれた母が認知症を発症し、自身で介護・看取りをすることを決意。「認知症になっても普通の暮らし、安心して死ぬ場所を作りたい」と特定非営利活動法人(NPO) 里・つむぎ八幡平を2010年6月に設立・起業した。福祉専門職のルールありきのケアに対して抱いた違和感を起点に、24時間365日「個人を大切に利用する暮らしの創設をとの信念を貫き通している。

斬新な発想で制度を超えた“家”を次々開設

高橋氏は、“家”を拠点とす

れば地域に溶け込みやすいと考え、築45年の実家を改装して住宅型有料老人ホーム「宅老所里・つむぎ」を開設した(2011年4月)。2016年には「助け合いの里をいくつか広げてゆき、命をつむぐ」との思いを込めて、宅老所改め「まるごとケアの家 里・つむぎ」と改名(写真①)。認知症対応型デイサービス(定員10人)と宿泊(定員8人)を行い、退院後の静養や緊急時、一人暮らしで不安な場合、障がい者の日中一時支援などに対応。制度上区分されている複数のサービスを一つ屋根の下で複合的に提供する。母1人の利用から始まった事業は、“通い”と“泊まり”をセットにすることで軌道に乗り、今や待機者がいる状態となった。

また隣地には、障害を持つ子と高齢の親が共に生活することを可能とした共生型グループホーム「白山の里」を開設(2014年4月)。1階の認知症高齢者(介護保険法・9部屋)と2階



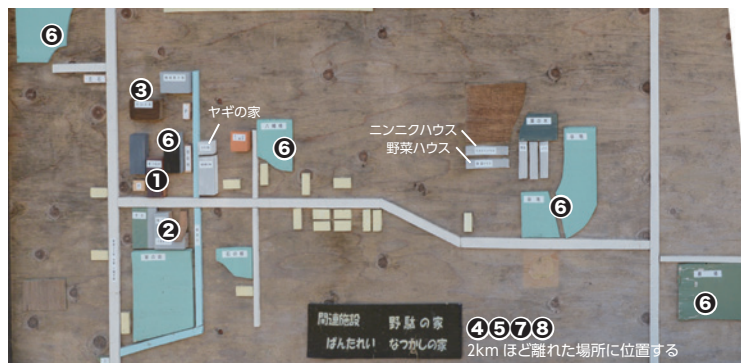
NPO 里・つむぎ八幡平 / (一社) すばるの理事長 兼 統括施設長 (介護支援専門員) の高橋和人氏

の障がい者(障害者総合支援法・女性専用5部屋)が、互いに役割を持ち、支え合いながら穏やかに暮らしている。当初は建物を分けて渡り廊下でつなぐよう行政指導があったが、各々の施設基準を順守し、かつ富山や宮城の先行事例を提出して理解を求めるうちに、相互交流が認められるようになった。

現在、NPO 里・つむぎ八幡平は5事業所を、また後述する農業事業を主とする関連法人の(一社)すばるは3事業を展開しており、利用者はあちこちの活動場所を行き来する。高齢者と障がい者の共同生活は、フレイル予防や要介護度の改善、



①「まるごとケアの家 里・つむぎ」:「まるごとケアの家」とは、医療・看護・介護その他の社会資源を制度の枠組みにとらわれず複合的に組み合わせ、地域で援助を必要とする人に対して日常生活の包括的なケアを適切に提供する事業を目指す



認知症の進行を遅らせる効果をもたらしている。助け合いも喧嘩もあるが、それこそが普通の暮らしであり、様々な症状を抱えた障がい者たちも自宅にいるような感覚で暮らせれば落ち着きを取り戻していく。職員も、決して“共依存”とならないよう関わり方に気をつけ、個々の利用者に適したサポートを行い、動けるうちはできることに取り組んでもらっている。福祉現場では“正解”を得にくいことが多いが、信念を共にする各事業所の管理者と職員50人が「その人に大切なことは何か」を一緒に考え悩み、話し合いを重ねて倫理的妥当性を担保した結論を導く。高橋氏は、問題に対する判断は現場に任せ、最終責任を自分がとる形で組織を束ねている。

垣根がないのは利用者間だけではない。家庭的な雰囲気が味わえる「くるまっこ」（小規模多機能型居宅介護、2018年開設）には、図書コーナー、地域

交流室「結」が併設されており、地域住民へ貸し出している。誰でもフラッと立ち寄れるよう「田園の保健室」の看板も掲げ、日々の健康の悩みや医療・介護保険に関する無料相談を受け付けている。

八幡平市は人口約24,500人で高齢化率40.6%（2020年9月末）、限界集落が数多く点在し過疎化が進んでいる。訪問診療を担う診療所はなく訪問看護ステーションは1カ所のみで、医療は実質的に盛岡市に丸投げ状態。住民の意識は「死ぬときは病院」である。その中で高橋氏は、地域と協力しながら元気な時から看取りまでを行う総合的な介護・福祉を探索し、すべての入所系事業所で自然な形での看取りに取り組んでいる。市内の福祉施設は特養4（うち看取り対応1）、老健3、小規模多機能2で今は需給バランスがとれているが、人口減少率が高く数年後には定員割れも出ると予測される。里・つむぎ八幡平の施設群が生き残るために何

をするか、思案を重ねている。

農業を基盤とする 循環型福祉に挑戦

大切にしている柱の1つが命の根本である「食」。親の遺産の田んぼ2haと畑50aで2017年に「すばる農業事業」を本格化させ、利用者と農福連携に取り組んでいる。畑は現在1ha余に。低農薬で育てた安全・安心の食材を、法人各施設へ供給する地産地消・自給自足で、育て・食べ・販売する「循環する農業」に挑戦中だ。地元固有種にんにく「八幡平バイオレット」の栽培に力を入れ、将来的には全国にその名を馳せたいと奮闘している。

農業や古民家という八幡平ならではの地域資源を活用し、各種制度を利用しながらもその枠にはとらわれずに、理想とするケアを追求する「里・つむぎ八幡平」は、伝統的な地方農村社会で新たな地域共生を切り開いて走り続ける。

（本誌編集専門委員 小野 洋子）



●特定非営利活動法人 里・つむぎ八幡平

- 1 まるごとケアの家 里・つむぎ：住宅型有料老人ホーム（宿泊定員8人）と認知症対応型通所介護（定員10人）の複合型施設。2011年開設
 - 2 くるまっこ：小規模多機能型居宅介護（登録定員29人〔通い18人・宿泊7人〕）。年中無休、2018年開設
 - 3 白山の里：認知症高齢者と障がい者対象の共生型グループホーム。2014年開設
 - 4 野駄の家：女性の障がい者のみ対象のグループホーム。6月から白山の里に統合（建物・名称はそのまま）
 - 5 ぱんたれい：認知症対応型グループホームと住宅型有料老人ホームの複合施設。
- ### ●一般社団法人すばる
- 6 すばる農業：米と野菜を低農薬で育て、法人内各施設へ供給。専業者2人
 - 7 すばる：障がい者就労継続支援B型事業所。主な作業は、「なつかし食堂の調理、ウェイトレスの補助」「小物作り」「外部からの委託事業」「パソコン入力作業」「野菜栽培・米作り」「クリーニング等環境整備作業」「農作物の加工品開発・販売」「新割り・乾燥・販売」「配食サービス」ほか
 - 8 なつかし食堂：築100年余の古民家を改装。すばる農業の食材（米と野菜）を使ったランチを提供するほか、各施設への配食を行う。2階にすばるの作業所と事務所がある

